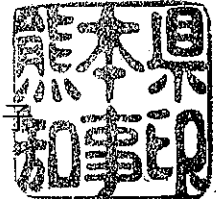




道整第73号
平成19年4月27日

国土交通省 道路局長 様

熊本県知事 潮谷 義子



中期的な計画の作成にあたっての意見について

貴職におかれましては、日頃から本県の道路行政の推進にご尽力頂きまして御礼申し上げます。

さて、平成19年4月2日付け国道企第114号で意見照会がありました「今後の具体的な道路整備の中期的な計画作成」にあたっての意見について、下記のとおり回答します。

記

1 「重点化を進める上で特に優先度の高い政策」について

本県では、九州新幹線の全線開業を見据えた「元気で明るい熊本づくり」を推進するため、縦軸である九州縦貫自動車や南九州西回り自動車道に対して、それを有機的に支える九州横断自動車道延岡線や中九州横断道路等の横軸となる道路の整備など、以下の道路施策の方向性に基づき着実に整備を進めることが必要であると考えます。

- ①九州の横軸を形成し、熊本の拠点性を確立する道路ネットワークの整備
- ②観光など地域産業を支え地域資源の魅力を引き出す道路の整備
- ③地域の安全・安心な生活を支える道路の整備
- ④道路の使い方を工夫する取り組み

2 「効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと」について

現下の厳しい財政状況や少子高齢化の進展等を踏まえ、限られた予算で最大限の効果を発揮するための今後の効率的な施策展開については、以下の点を重視すべきであると考えます。

- ①説明責任の実行とスケジュール管理の徹底
- ②既存道路ストックの有効活用
- ③新技術の活用によるコスト縮減
- ④住民等の参画による道路管理

3 「その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関すること」について

道路政策や道路の整備・管理を進める上では、以下の点も重要であると考えます。

- ①道路整備財源の確保
- ②ユニバーサルデザインに配慮した道路整備の推進

【別紙】

意見1 「重点化を進める上で特に優先度の高い政策」について

本県では、九州新幹線の全線開業を見据えた「元気で明るい熊本づくり」を推進するため、縦軸である九州縦貫自動車や南九州西回り自動車道に対して、それを有機的に支える九州横断自動車道延岡線や中九州横断道路等の横軸となる道路の整備など、以下の道路施策の方向性に基づき着実に整備を進めることが必要である。

① 九州の横軸を形成し、熊本の拠点性を確立する道路ネットワークの整備

- 九州では、東側、西側地域を縦断する高速交通ネットワークの形成が進められているが、このネットワークとの一体化を図り、九州の東西を結び、連携・交流の強化を図る横軸の幹線道路ネットワークを整備する必要がある。
- また、九州新幹線の全線開業効果を最大限に発揮させ、更には、本県が真に九州の中心としての拠点性を高めるためには、県土の骨格となる縦軸、横軸や熊本都市圏の交通円滑化に資する道路、交通拠点へのアクセス強化を図る道路の整備が必要である。
- 特に、阿蘇、大分を結ぶ横軸については、国道57号の立野、瀬田地区の4車線化を短期戦略として重点的に整備するとともに、中九州横断道路については、企業集積地の産業振興の支援、整備済の国道325号、国道57号を有効活用した新たな阿蘇方面や熊本空港へのアクセスルートの形成を図る上から、横軸の要である熊本環状道路が概成し、国道57号の阿蘇へのアクセス整備が完了する時点を見据え、熊本西環状道路から九州縦貫自動車道を経由し、国道325号に至る交通ネットワークとして整備を進めることが必要である。

② 観光など地域産業を支え地域資源の魅力を引き出す道路の整備

- 古くから観光資源に恵まれている九州各地域や、阿蘇、天草など豊かな観光資源が多く点在している本県において、観光戦略は地域間競争力の強化を図る上で最も重要な視点である。このため九州一体となった観光地を結ぶ周遊ルートの形成や観光地へのアクセス向上を図る熊本天草幹線道路等の整備が必要である。
- また、本県には、自動車関連産業、半導体産業等、日本のみならず世界に通用する産業が集積しており、これらの産業を支える道路の整備が必要である。

③ 地域の安全・安心な生活を支える道路の整備

- 本県を含む九州各地域は脆弱な地質と台風の常襲地帯であることなどから自然災害が発生しやすい条件下にあるため、災害時の緊急輸送道路や迂回ルートの確保など安全・安心な暮らしを支える道路の整備が必要である。
- 合併支援道路など、住民が必要な公共サービスを受けるための暮らしを支える道路の整備が必要である。
- 超高齢社会の到来を踏まえ、誰でも安全・安心に移動できる歩行空間の確保などの道路の整備が必要である。

④ 道路の使い方を工夫する取り組み

(既存道路ストックの効果的な活用)

- バイパス整備など抜本的な対策は効果は大きいものの長期間を要することから、右折レーン設置による渋滞対策やスマートICの設置など速効対策として既存ストックの効果的な活用を図っていく必要がある。

(高齢化する道路ストックの戦略的な管理による持続的な活用)

- ・ 今後、高度成長期に多量に整備された橋梁などの構造物が更新期を向かえるため、適切な時期に十分な補修を行うなどの戦略的な維持管理により、持続的に活用できるよう構造物の長寿命化を図る必要がある。

意見2 「効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと」について

現下の厳しい財政状況や少子高齢化の進展等を踏まえ、限られた予算で最大限の効果を発揮するための今後の効率的な施策展開については、以下の点を重視すべきであると考えます。

① 説明責任の実行とスケジュール管理の徹底

- ・ 事業実施において、事業効果、整備目標などを明らかにし、国民、県民に理解が得られるように努めるとともに、その達成に向けたスケジュール管理を徹底し、スピーディな事業展開を図ることが重要である。

② 既存道路ストックの有効活用

- ・ 厳しい財政状況等を踏まえ、既存道路の部分改良や高速道路の有効利用など既存ストックを有効に活用することが重要である。

③ 新技術の活用によるコスト縮減

- ・ 工法の工夫や新技術の活用などにより道路工事や管理に係るコストの縮減を図ることが重要である。

④ 住民等の参画による道路管理

- ・ 地域住民やボランティア団体などの参加や協働による維持管理の推進を通じて道路管理の効率化を図ることが重要である。

意見3 「その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関すること」について

① 道路整備財源の確保について

- ・ 本県は九州各県に比べ、移動手段を自動車に依存する割合が高いにもかかわらず、高規格幹線道路を始め日常生活を支える道路に至るまで必要な道路の整備がまだまだ遅れており、本県が自立的・持続的发展を進めるためにも道路整備が必要であり、そのためには必要な財源の安定的な確保を図る必要がある。
- ・ 「道路特定財源の見直しに関する具体策」に伴う今後の制度改正にあたっては、地方の声や道路整備の実情に十分配慮し、特定財源としての性格を維持しつつ、道路整備の安定的な財源を確保する制度となるよう要望する。

② ユニバーサルデザインに配慮した道路整備について

- ・ 本県では、誰もが暮らしやすく豊かな社会を創造するユニバーサルデザインと、県民等とのパートナーシップを県政運営の基本に据え、誰もが住みたい、住み続けたい熊本づくりを進めている。このため、平成17年に「熊本県の道路に関するユニバーサルデザイン指針」を策定し、あらゆる道路についてユニバーサルデザインに配慮した道づくりを進めている。
- ・ 国においてもユニバーサルデザインに配慮した道づくりを推進していただくようお願いする。